京都の
商店街を
みつめる

「常に新しい」新京極商店街

エンターテイメント溢れる商店街に新しい風吹く予感

事業イベント「新京極華をどり」の様子

SNSで募集した清掃ボランティアに参加してくれた一般の方

理事長 岡本さん

西澤さん

新京極商店街振興組合
〒604-8035 京都市中京区新京極通六角下る桜之町 438 番地 1 べんてん堂ビル 3F
☎ 075-223-2426（月～金 10 時～12 時／ 13 時～17 時）URL：https://www.shinkyogoku.or.jp

新旧集まる混沌の新京極商店街。今年迎えた開通150周年を記念し様々な取り組みが行われています。今回は新京極商店街の理事長である**岡本さん**、150年記念事業実行委員会の副委員長をされている**西澤さん**に、今行われている事業や、取り組みを通した商店街全体への思いをお伺いしました。

ー新京極商店街はどんな場所ですか？

岡本さん　京都の通りの中でも歴史が浅く、「新しくできた京極」として「新」の名がついています。その名の通り新しいものが常に入り続けており、新しい店も老舗も混沌と存在しています。自分のライフスタイルとマッチするものに出会える奥行きがある、まるで「大人のアミューズメントパーク」のような場所なんです。

西澤さん　寺町京極が元々お寺の入り口で、新京極はお寺の境内でした。境内で行われていたマルシェのようなものが常設される形で発展したんです。元々エンターテイメント性が強く、当時から演劇や射的のような出し物が並んでいて、何かを買うより遊びに行く場所でした。

ー賑やかな多様性のある商店街なんですね。開通150周年を迎え行われている取り組みを教えてください！

西澤さん　若い者がなろう、ということで、若手の自分がこの事業のイベント企画や広報を担当しています。ロゴ制作、アーケード屋根や看板などハード面の工事、150年の歴史を冊子にまとめたり。定期イベントも150 周年に絡めたり、花街から舞妓さんをお呼びして「新京極華をどり」を催したりしました。この場所のエンターテイメント色を守り、「新京極行ったらおもろいやん」と思っていただきたいんです。

岡本さん　コロナで派手にできないけれど、何かイベントを催す度、理事会と協力員さんみんなの手で一緒に設営して撤去しています。来られたお客さんに喜んでもらうことが何より大事！という共通認識のもと、みんなで協力し合って取り組む意識があるんです。

ーお客さんへの想いが伝わります。今後の取り組みについて展望はありますか？

西澤さん　今、京都府のプロジェクトで繋がった学生がボランティアで広報活動をしてくれています。その学生が別の学生を連れてきて輪が広がったり。SNSで清掃ボランティアを募集すると参加してくれた方もいました。近々サポート団体も形成しようと思っています。私自身、事業が忙しくてお店に手が回らないように、内部の力だけで商店街は回りません。地域内外から人を巻き込んで、みんなで一緒にこの商店街を運営したいと思っています。

岡本さん　商店街のため協力員や理事になろうと思う人を増やしたいです。メンバーがただ集まるだけではなく、悩みも共有し合い相談しながら結びつくコミュニティである必要があります。このためにも、若い人が中心となり、若い人の思いが反映できる環境にしていかなくてはなりません。

お２人共「**常に何かやっている商店街にしたい**」という言葉を口にされたのが印象的でした。**“お客さんを喜ばせることが商店街全体の喜び”**という共通認識のもと、課題に向き合い新しい風を起こすために精力的に活動されており、またそのサポートの必要性に向き合っている姿がありました。

広告掲載募集中
京都商店街新聞の紙面に掲載する広告主様を募集しています。
広告詳細につきましては、お問い合わせください。

食材全てをより美味しく、魅力的に！

食品ロスの削減やごみの削減をめざす取組を紹介します

京都錦市場商店街編

初めまして！私は、ごみに対する意識改革に取り組んでいる大学生団体「ストレイト」です。こちらのコーナーでは、商店街における食品ロスの削減やごみの削減の取り組みについて紹介していきます。今回は京の台所として愛される、京都錦市場商店街です！その中で３つのお店について紹介します。

大國屋｜うなぎからぶぶうなぎに

昔からの伝統を引き継ぐ【大國屋】

１店目は、うなぎを中心とした川魚を販売する大國屋です。ここでは売れ残ったうなぎをある商品に生まれ変わらせるそうです。それが、「ぶぶうなぎ」です。この商品は、残ったうなぎをぶつ切りにして山椒とタレで炊いて作られています。昔ながらの知恵を使って、食べ物を無駄にすることなく新たな輝きを持たせるところに工夫が感じられました。

「出物」こそ売り出し物【宇治屋】

２店目は、宇治抹茶専門店の宇治屋です。ここでは、100% 自社ブレンドの「熱湯玉露」が有名です。この商品を作る際に取り除かれる細かな茶葉、いわゆる「出物」と呼ばれるものを集めて、ある商品として販売しています。それが「粉茶」です。ここでも捨てられるはずのものが新たな主役となるように活用されています。

宇治屋｜茶葉が粉茶に

味に自信あり！【四寅】

最後に、京野菜や果物を販売している四寅です。ここでは、見た目が少し悪くても鮮度には問題が無い商品を、傷みあり商品として販売しています。さらに果物について、より見た目が悪い場合は、お店の厨房でジャムにして販売しています。このように見た目が悪いと捨ててしまうお店も多い中で、できるだけ商品にしようとする気持ちが素晴らしいと思いました。

四寅｜果実がジャムに

錦市場では、本来捨ててしまうものを新たな商品として販売しているのですね！ 次回も様々な取り組みについて紹介していきます。ぜひ取材して欲しいという商店街さんは、奮ってご連絡ください。お楽しみに！

大学生団体｜ストレイト
代表｜藤田 直己
E-mail:pianotaiko8021@gmail.com

ツーリストシップで旅行者交流

ツーリストシップとは、スポーツマンシップの観光版で、旅先で出会う人々が意識したい心構えです。このコーナーでは、商店主からお聞きした旅行者エピソードをご紹介させていただきます。

嵯峨商店街にある Platz は老舗寝具店から始まり、“良いものを残す”のコンセプトで生活雑貨・家具も扱うお店。代表の加藤就一さんにお話を伺いました。

商店街では既に 2003年に、時代を予想してインバウンドに関するシンポジウムを開催しました。しかも講演は英語。当時は自治体職員の方もぽかーん。その後しばらくして見られだしたのがトイレの問題。ちり紙が流されない。でも散らかされるのではなく、並べられている。なぜだろうと留学生にヒアリングしてみて、やっと文化の違いがわかりました。

そうしたきっかけもあり、加藤さんは積極的に海外の文化や言語を学ぶようになりました。

異文化は、「違い」ではなく「不思議」と捉えます。そうすると、より分かり合えるのではないでしょうか。そして言葉はやっぱり大切。流暢でなくていい、キーワードでいいんです。「ありがとう」「またお越しください」の声かけや、商品説明の翻訳とか。お勧めは「雑談」。私は旅の一番の思い出は雑談ではないかと思っています。

ある時、世界中の枕の収集が趣味のカナダ人整形外科のお医者さんが来られました。雑談していると、「この旅の二週間で初めて雑談できた」ととても喜んで枕を買って帰られました。ちなみに欧米では枕を複数使用しますが、日本のように身体を起こさずに寝る姿勢は、棺桶を想像するとのこと。それも雑談で知りました。有名な俳優さんなども来られましたが、彼らも雑談できたことを喜んでいました。写真でも見られる観光名所と違い、現地の人との雑談はそこでしかできない。その土地の思い出として深く温かく残るのではないでしょうか。

“自分と違う”ではなく“不思議！”と異文化に触れ、雑談をとおして互いの文化の印象を深めて温かい気持ちになる。お店の中だけでなく、道ゆく観光客にも実践していきたいですね。

広告サンプル
お買い物は商店街へ！
商店街のにぎわいを通じて
地域社会のきずなが深まることを
目指しています
京都商店連盟
京都府商店街振興組合連合会
〒600-8009 京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78番地 京都経済センター3階
TEL (075)-342-0301　FAX (075)-342-0302

広告掲載募集中
京都商店街新聞の紙面に掲載する広告主様を募集しています。
広告詳細につきましては、お問い合わせください。